2023年度(2024年3月期) 決算説明会における質疑応答

日 時 2024年5月17日(金) 14:00 ~ 15:30

形 式 本社での対面と Web のハイブリッド形式

 代表取締役社長 CEO 兼 COO
 奥田 久栄

 取締役副社長執行役員 CFO
 酒入 和男

 説 明 者

【2023 年度決算】

質問		回答
2023 年度、石炭価格の下落	•	上期においては、急激な価格下落であらかじめ調達した石炭の競
により、国内火力・ガス事業の		争力が低下して収支を押し下げたが、下期では価格が落ち着き収
期ずれ除き利益が低迷している		支悪化影響は縮小。また、LNG調達競争力はLNGスポット価格
ことに関して、社内でどう評価し		の低下により改善。結果として、赤字となっていた 2023/2Q 比で
ているか。		利益が約 350 億円持ち上がり、黒字となった。
	•	当社は今後も価格固定化取引を含め、ヘッジによる燃料価格の
		収支影響を軽減に努める所存であるが、ヘッジ手法や価格固定
		化割合の見直しなど、より最適な方法を検討してまいりたい。

【2035 年度ビジョンに向けた JERA 成長戦略、2035 年までに目指す収支水準・財務戦略】

12000 千茂にフェアに同じたJERA 成長共鳴、2000 千までに日泊す 牧文が平・約份共鳴)		
質問	回答	
成長戦略における 2035 年度	・ 武豊火災の影響を除けば、現時点で2025年度の目標を実現するます。	
の純利益目標 3,500 億をどう 実現するか。	る実力基盤はできている。 ・ 残り 1,500 億円については、「LNG」、「水素・アンモニア」事業におけるバリューチェーン全体における資産の売買・柔軟な活用	
	や、O&M によるコストダウンによって収益力を高めていく。 また、再生可能エネルギー事業においても、発電するだけではな く、グリーン水素・アンモニアを使う手段としてのシナジーを追求し 利益率を上げていき、最終的に達成していく予定だ。	
2035年に向けた成長戦略における「LNG」、「再生可能エネルギー」、「水素アンモニア」の3分野の各々のサプライチェーンにおいて、自前でアセットを持ち続ける必要がどの程度あるか。	 「LNG」「水素・アンモニア」ではアセットの所有によって価格コントロールや仕向地の柔軟性を獲得することが可能になる。従って当社が新しい LNG の契約や、新たな水素・アンモニアの上流を開発していく際には出資によって一定程度生産者側の情報等を得ていくことが必要だと考える。 「再生可能エネルギー」ではアセットそのものから獲得できるリターンはさほど大きくないため、O&M のコントロールを自社で行い最適な利益獲得ができる状態であればアセットの所有にこだわる必要はないと考える。 	

水素・アンモニアについての構築 への国のサポート体制に対する 評価を教えてほしい。	・ 水素と LNG、アンモニアと石炭との値差を補填する水素社会推進 法案は、事業リスクの軽減の観点で大きな助けになっている。・ 市場での収益化の仕組みを成立させるまでの中間段階において、 後に続く支援制度を期待している。
2035 年度目標における国内 火力・ガス事業の位置づけは。	 再生可能エネルギー領域への適切な投資を継続させていくためにも火力は依然として重要事業として位置づけている。 新たな商品メニューの作成等、火力発電源の価値を高めるため努力を行い、少なくとも今の水準以上の価値を維持することを目指す必要があると考える。
2035 年までの収支・財務水準で示される投資計画について、具体的にどう考えているか。	2030 年頃までは LNG への投資が中心となり、2030 年以降は 水素・アンモニアへの投資を集中させていくというのが当面の大方針 だ。
2035 年までの投資を実現する ための資金調達をどのように考え ているか。	・ 当社が規律ある成長戦略を実行するためには、様々な調達手段を念頭に財務戦略を想定している。なお、累計 5 兆円の投資キャッシュ・フローは、累計 5.5 兆円の営業キャッシュ・フローの範囲内で実施する計画である。
2035 年の ROE 目標が 2025 年度目標から据え置きなのはな ぜか。	 ROE9%の水準は、正のエクイティ・スプレッド(ROE – 株主 資本コスト)を確保できる水準と認識している。 伊藤レポートで示されている「8%」、また、当社の考える「株主 資本コスト」の水準を超えており、一定程度の水準と評価しているが、引き続き稼ぐ力を増加させることで ROE 水準も確認していく。
なぜ ROIC と WACC のスプレッドでの開示なのか。	金融環境の見通しに不透明性が増していることに加えて、期間が長期にわたることなどを踏まえ、いかなる環境下でも WACC の 150bps 超のリターンを挙げることを目指すことを示すため、スプレッドでの開示とした。
なぜ A 格の維持を目指すのか。	 当社が目指すのは、世界のエネルギーが抱える難問を解決することである。すなわち「安定供給を維持しながら(Stability)、 手ごろな価格でお届けし(Affordability)、脱炭素社会への移行(Sustainability)」を同時達成することである。 しかし、この目標達成には、政治経済情勢、資源価格、技術革新や規制動向などから大きな影響を受けることが想定される。このような不確実な環境の中でも事業を遂行させるには、財務の健全性が重要である。信用格付ではすべての格付でA格維持を目指している。

JERA の競合はどこか。 また、競合他社にはないJERA の強みは。

O&M、最適化、事業開発という3つの機能を持ち、LNG、再 エネ、LCFの3つをグローバルスケールに形成して組み合わせた ソリューションを提供する、電力に起源を持つ企業は世界でも類 がなく、JERAの独自性であり、強みと考えている。

以上

将来の見通しの記述について

本資料にある計画、戦略、業績予想等に関する記述は、記述した時点で当社が入手できた情報に基づいたものです。これらの予想・予測には、当社を取り巻く経済情勢、競合環境、関連法規、為替レート等不確実な要素が含まれており、これらの予想・予測を覆す潜在的なリスクが顕在化する可能性もあります。したがって、将来の実際の業績・事業環境等が本資料の記述と異なったものとなる可能性があることをご承知おきください。